

令和2年度当初予算において意見を反映した主な事業

◎意見数 42

(単位:千円)

テーマ1 次代を担い地域を支える人材の育成・確保

「自分の生まれ育った地域に自信と誇りを持って住み続けるために、若者が地域の魅力を再発見する必要がある。今まで以上に、子どもたちが地域のことを知る機会を作ってもらいたい」

⇒ 小中高等学校を通し、郷土を学ぶ学習や地域の資源を活用した様々な体験活動等を行っているほか、高校では、地域課題の解決を図るための探究的な学びや地域と連携したキャリア教育を推進している。引き続き、学校における取組や地域等との連携を強化していく。

(学校・家庭・地域の連携協働推進事業費【一部新規】 95,104)

テーマ2 競争力のある力強い農林水産業の振興・活性化

「若者の新規就農を促進するため、離農・耕作放棄された農地を新規就農者にスムーズに移行する支援をしてはどうか」

⇒ 地域の担い手は地域で育てるという考えのもと、離農予定者の農地や遊休農地を活用した新規就農者への円滑な経営基盤と技術継承を県内に広めるためのモデル的な取組を支援している。令和2年度より、新規就農者が耕作放棄地を再生して農業に取り組める事業を創設し、支援を強化する。

(やまがた「人・農地」リニューアル事業費【一部新規】 1,500)

テーマ3 高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化

「点だけではなく、線と面で人を呼び込む観光ルート作りやPRを検討してはどうか」

⇒ 現在、県、市町村、民間で組織する「やまがた観光キャンペーン推進協議会」が主体となり、官民一体となって本県のイメージアップや観光客の誘客拡大のため、観光PRや情報発信に取り組んでいる。

令和3年に開催される東北DC(DESTINATIONキャンペーン)に向け、本県の各地域の魅力ある観光素材を磨き上げ、観光ルートとしてそれらを組み合わせることで広域に回っていただけるよう取組を推進していく。

(観光キャンペーン推進事業費 等【一部新規】 120,045)

テーマ4 県民が安全・安心を実感し、総活躍できる社会づくり

「親が乳幼児期の子を自分の手で育てられるよう、産休や育休を取りやすい環境を整備してはどうか」

⇒ 企業におけるワーク・ライフ・バランスの取組を推進するため、「やまがた子育て・介護応援いきいき企業制度」による企業の取組をサポートするほか、「やまがたイクボス同盟」の活動を通じた企業経営者層の意識改革を図っている。今後新たに、従業員の仕事と子育てに関する一般事業主行動計画の策定に向けた支援等に取り組んでいく。

(企業等におけるワーク・ライフ・バランス推進事業費【新規】 13,333)

テーマ5 未来に向けた発展基盤となる県土の整備・活用

「地球温暖化による気候変動や県内農林水産業等への具体的な影響について、各研究機関と各部局が連携して調査・整理し、広く県民に伝える必要があるのではないか」

⇒ 平成30年12月の「気候変動適応法」の施行を受け、来年度新たに「地域気候変動適応計画」を策定するとともに、本県における気候変動への適応に関する情報の収集、整理、分析等の拠点機能を担う「地域気候変動適応センター」の設置についても検討していくこととしている。

農林水産業分野においても、引き続き、新技術・新品種の開発に取り組むとともに、実証事業を通して研究の成果の普及を進めていく。

(地球温暖化対策推進体制整備事業費【一部新規】 2,950)